

うおーみんぐ

京都府地球温暖化防止活動推進センター通信

No.40 春



鹿肉を使った料理を社員食堂で提供／エスベック株式会社 福知山工場
(関連記事p.4,5)



低炭素杯で長岡第四小学校が最優秀次世代賞を受賞
(関連記事p.6)



平成25年度最後の推進員研修を実施
(関連記事p.7)



c o n t e n t s

- 2 特集**
3 「工夫の省エネ」緑のカーテンで夏を涼しく！
地域で緑のカーテンの輪を広げよう！

- 4 鹿肉で地球温暖化防止？**
5 森を守ることにもなる？

- 6 低炭素杯2014**
京都府長岡京市立長岡第四小学校
“目指せ1t”～地域を動かした子どもたちの合言葉～
が最優秀次世代賞を受賞！

- 7 活動レポート**
2013年カエデの紅葉日調査報告
第4回京都府地球温暖化防止活動推進員研修会を
開催しました

- 8 お知らせ**
自然エネルギーを取り入れて暮らす人々たち取材
し、事例をまとめた冊子ができました



京都府地球温暖化防止活動推進センター

Kyoto Center for Climate Actions

京都府地球温暖化防止活動推進センターは、府内の温暖化防止活動を様々な面からサポートし、一層活性化させることを目的に活動するセンターです。平成15年10月10日、府内の多様な団体が連携し新たに立ち上げたNPO法人 京都地球温暖化防止府民会議が京都府知事からセンターとしての指定を受け、その活動を開始しました。

京都府地球温暖化防止活動推進センターの活動は、国、京都府、府内の多様な団体、会員の皆様などのご支援によって支えられています。

「工夫の省エネ」緑のカーテンで夏を涼しく！ 地域で緑のカーテンの輪を広げよう！

夏を涼しく過ごすためつる性の植物を窓辺などで育てる「緑のカーテン」。4月に入ると、そろそろ準備を始めようと思う方も多いでしょう。

緑のカーテンを、自宅で楽しむだけでなく、地域の人たちと一緒に取組みませんか？京都府内には、栽培講習会やフォトコンテストの開催、緑のカーテンに必要な資材の調達支援、環境出前講座など、地域に根ざした活動例がいっぱい。地域を巻き込んで広げている3つの展開例を紹介します。

【事例1】 目指せ、福知山市内で平成25年度 一般家庭実施率10% その結果は？

福知山環境会議

福知山市では、「緑のカーテン実施率日本一」をスローガンに掲げ、福知山環境会議が中心となり活動しています。スローガン達成のため、具体的な数値目標（公共施設実施率90%、平成27年度までに一般家庭実施率25%）実現にむけて、普及運動を行なっています。福知山市の特徴は、栽培講習会開催、実施率の調査、調査結果の分析、次年度以降の計画づくりと、年間を通して戦略的に活動しているところです。

平成24年度には、学校などの公共施設実施率90%を実現。そこで平成25年度は一般家庭の普及に重点を置き活動を進めました。5月連休明けから市内10ヶ所の公民館で栽培講習会を開催。9月に入ると、一般家庭実施率調査に着手し、福知山環境会議のメンバーと公募ボランティアが人海戦術で市内を隈なく回り、小学校区毎の実施率を算出しました。調査の結果、福知山市全体での一般家庭実施率は、平成25年度は8.23%。目標の10%には届きませんでしたが、4軒に1軒取組んでいる地域も見つかるなど、地域毎の特徴を把握できま

した。この調査で実施率が低い地域を割り出し、平成26年度はそれらの地域での働きかけを積極的に行う予定です。また、一般家庭実施率の目標値も平成26年度は18%とし、さらに高い目標に挑みます。



← 実施率調査の様子



福知山環境会議は、東日本大震災被災地支援として、気仙沼市唐桑地区の仮設住宅への緑のカーテン設置にも一役買っています。

（栽 培 ス ケ ジ ュー ル）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
土づくり						
種まき・苗づくり						
植え付け						
ネット張り						
水遣り						
追肥						
完成						
片付け						

涼しくなったら

事例

2

継続は力なり、講習会参加者にアンケートを取り、しっかりフォロー

八幡市環境市民ネット

9年前（平成17年）に京都府内で一早く緑のカーテン活動を始めた八幡市では、八幡市環境市民ネットが中心となり、継続的に緑のカーテンの普及を行なっています。平成18年度には、八幡市立の幼稚園等12園で設置支援し、それ以降もそのほとんどの園が独自で緑のカーテン設置を続けています。また、八幡市環境市民ネットメンバーは、毎年、市立の全ての園へ環境出前講座に出かけます。

平成19年度からは、一般家庭向けの栽培講習会も始められ、今では毎年5月の恒例行事となっています。平成25年度は八幡市役所など2ヶ所で実施、250人余りの参加者がありました。夏以降に講座受講者対象にフォローアップアンケートを行い、設置した場所や大きさ、完成状況など受講者からの声を集めます。アンケート結果からその年の活動を振り返り、次年度の活動に活かしています。



← 環境出前
講座の様子



← 講習会では、ゴーヤだけでなく、ツルムラサキ利用のグリーンカーテンもアピール

事例

3

PTA主催で、学校内にクールスポットづくりを実践し、「緑の教室」が校庭に登場

向日市立向陽小学校PTA

向日市立向陽小学校PTAは、平成24年度から緑のカーテン設置支援を始めました。平成25年度は、PTAと4・5年生が、夏の涼しい過ごし方を考える活動「クール化計画」を実施しました。まずは、「緑の教室づくり」として、つる性の植物で覆った教室を校庭につくり始めました。骨組みづくりには地元の工務店が協力し、竹細工名人を迎えて竹床も手づくり。周りに20種類以上48株のつる性植物の苗を植え込みました。

全てプランター植えだったので、緑で教室全体を覆い尽くすことはできませんでしたが、すだれを付けるなど工夫をし、緑の教室をクールスポットとして活用。1学期の終業式の後には、浴衣を着た児童が保護者に竹茶を振る舞うなど、憩いの場として活用しました。さらに、PTA主催の秋まつりには、子ども省エネ相談所や発電体験コーナーを設置。暮らしとエネルギーについて考える機会を児童たちに提供しました。



← 緑の教室



✓ 竹床づくり
浴衣を着て竹茶を振舞う↓



▶▶▶ センターウェブサイト「みどりのカーテン交流広場」のブログで情報発信中、今年も情報をお寄せ下さい！

<http://www.kcfca.or.jp/jigyoku/kyouiku/midori/index.html>

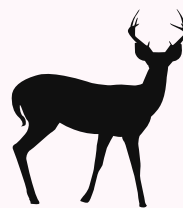
情報はこちらまで：green@kcfca.or.jp

鹿肉

で地球温暖化防止？森を守ることもなる？

地元の食材を食べることが、食材の輸送に伴うエネルギー由来のCO₂（フード・マイレージCO₂）排出量を減らし、温暖化防止にも繋がる。当センターでは、この観点から「低炭素型食の好循環づくり」プロジェクトで地産地消を進めてきました。平成25年度は地元食材として「鹿肉」に着目。生産者と消費者を繋げるマッチングを行いました。

鹿肉に着目した理由と、実際の導入事例をご紹介します。



鹿肉を食べてフード・マイレージCO₂減？CO₂排出量を減らせるのはなぜ？

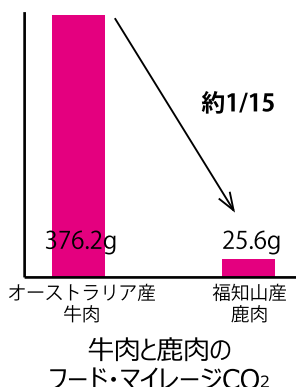
日本では、牛肉の58%を輸入に頼っており、そのうち62%はオーストラリアからの輸入（2012年データ）。海外から運ぶことになるので、フード・マイレージCO₂が大きくなります。一方、今回注目した「鹿肉」はどうでしょうか。例えば、右ページで紹介するエスペック株式会社では、地元福知山産の鹿肉を、京丹波町の加工場で加工して使用したので輸送距離は、非常に短くすんでいます。

オーストラリア産牛肉と、エスペック株式会社で使用された鹿肉（2kg）のフード・マイレージCO₂を比較したのが下のグラフ。排出量は1/15に激減しています。

「鹿肉でなくても、国産（地元産）の牛肉だったらいいじゃないの？」と思われるかもしれませんが、実は、そこには少々難しい問題が潜んでいます。牛肉を1kg生産するためには、飼料が11kg必要と言われています。現在のところ、飼料の多くは輸入品のため、これを含めて考えると、国内産牛肉のフード・マイレージCO₂の方が多くなる場合があるのです。

この点、鳥獣害対策のために捕獲された鹿肉であれば、食べ物はすべて自然のものと考えられますので、飼料のフード・マイレージCO₂を考える必要ありません。

肉自体のフード・マイレージCO₂が少なく、飼料のフード・マイレージCO₂はゼロ。温暖化対策としての鹿肉利用、ちょっと面白いと思いませんか？



●計算根拠

注1) 牛肉の産地はオーストラリア、鹿肉の産地は福知山市とした。

注2) 牛肉の輸送距離は、オーストラリア(シドニー)～大阪港までの航路と大阪港から福知山市内の陸路を計算。鹿肉は、福知山市から京丹波町内の加工場までの往復距離で計算。海上距離は、海上保安庁発行「距離表」を参照。日本国内距離はインクリメントP(株)「Mapfan Web」により算出。http://www.mapfan.com/routemap/routeset.cgi

注3) 1km輸送によるCO₂排出係数は、外航船0.02kg、内航船0.04kg、トラック0.18kgで算出。

算出協力：地球環境デザイン研究所 ecotone (エコトーン)

なぜ今鹿肉に注目するの？

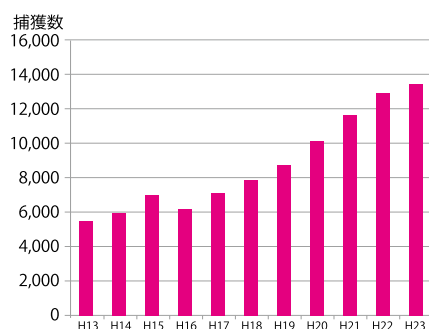
鹿肉から見えてくる

京都府内の里山や森林の現状！

-野生鳥獣の増加により農業や林業への被害が増加-

地球温暖化の影響や猟師の減少など複数の要因から、森林や里山での野生鳥獣（鹿・猪・猿他）の生息数が増えています。さらに、耕作放棄地などが増えたこともあり、野生鳥獣が農作物を荒らす件数が増え、全国的に農作物被害額も増加しています。京都府における野生鳥獣による農作物被害は平成20年度の7億4千万円をピークに年々減少し、平成24年度は5億3千万円となりましたが、依然深刻な状況です。

鹿の角研ぎや剥皮による森林被害も増え、裸地化が進み、貴重な植物が消えていっています。そこで、森林被害や農作物被害を少なくするために、野生生物の個体数管理が進められています。京都府では、狩猟や有害捕獲を合わせた鹿の年間の捕獲数は年々増加し、平成24年度には、13,236頭の鹿が捕獲されましたが、捕獲された鹿のほとんどは、埋め立て処分や焼却処分され、ジビエ料理として食べられている量は極めて少ないのが現状です。



京都府内のニホンシカ捕獲率
(資料提供：京都府農林水産部)

シカによる人工林剥皮被害
写真提供：京都府農林水産部



鹿肉メニューが、社員食堂、学生食堂、喫茶店で登場

社員食堂で鹿肉メニュー初お目見え

エスベック株式会社福知山工場

福知山市内にあるエスベック株式会社福知山工場の社員食堂では、12月に初めて京丹波町の鹿肉を使い「キーマカレー」が出されました。社員に大変好評で、これを機会に隔月メニューとして鹿肉が出されることになり、2月には「鹿肉の赤ワイン煮」も提供されました。

「鹿肉メニューを紹介したことで、社内に猟師資格を持つ有志によるジビエ部があることが分かりました。当社はCSR活動の一環として、植林等による森林保全活動を行っています。これに加え、今後は鹿肉利用も継続的に行いたいです。」とは環境管理部の土田さ

ん。ジビエ部が福知山市内で捕獲した鹿肉を社員食堂で提供すれば、正真正銘の地産地消メニューになり、地元の森を守ることにもつながるので、実現に向けて準備していくそうです。



社内展示



鹿肉のワイン煮

京都学園大学の食堂でも、鹿肉が大人気！

京都学園大学食堂 ゆう愛

京都学園大学の学生食堂では、平成26年1月と2月に1度ずつ、南丹市美山町の鹿肉メニュー（串カツ、丼など）が登場しました。食堂のカウンター前には、鹿と森林被害の関係などを知ってもらうためにパネルも展示。この取り組みは、夏に京都府センターでインターンシップを経験したバイオ環境学部3年生の市場さんが、食堂に呼びかけて実現しました。今回鹿肉を初めて食べる学生も多く、「意外においしかった」、「柔らかくてくせがない、今後も注文したい」など反応もまずまず。「珍しいメニューということもあり、食堂の利用者も普段より大

幅に増えました」とは代表の植村さん。2014年4月からは、月2～3回を「鹿の日」として、鹿肉メニューを出す予定です。



食堂の様子



料理の写真

伏見の喫茶店に鹿肉カレー登場！

喫茶うずら 京都市伏見区

京阪藤森駅から徒歩5分、京エコロジーセンターの近くにある「喫茶うずら」。昨年12月から、南丹市美山の鹿肉を使い「キーマカレー」と「鹿団子カレー」を出しています。「1日1～2食出ています。案外くせがないと好評ですよ」と店主の田中さん。数年前、北区雲ヶ畑の寺院の庭でシカの食害を目の当たりにしたそうです。山の獣害を減らすため都市から少しでも協力をできたらと、鹿肉メニューを加えました。食べにくさを解消するた

め、スパイスなど工夫しているそうです。キーマカレーをいただいたところ、硬さ・臭いなどはまったく感じられず、食べた後に体がホカホカする感じがしました。



低	炭	素	杯
2	0	1	4

京都府長岡京市立長岡第四小学校 “目指せ1t”～地域を動かした子どもたちの合言葉～ が(最)(優)(秀)(次)(世)(代)(賞)を受賞！

平成26年2月14～15日に、東京ビッグサイトで『低炭素杯2014』が開催されました。

低炭素杯は、地域に根差した地球温暖化防止活動のコンテスト。平成22年から毎年開催されており、先進的な取組の発表・情報交換の場となっています。

今回の低炭素杯2014には、全国から1620団体が応募。書類選考を通過した40団体が、ファイナリストとして壇上でプレゼンテーションを行

いました。

京都からは、長岡京市立長岡第四小学校が出場し、見事「最優秀次世代賞」を受賞しました。子どもたちは、大雪の影響で交通機関が混乱する中にも関わらず東京に駆け付け、大きな舞台上で堂々と発表を行いました。会場では、長岡京市で活動する推進員の皆さんも声援を送っていました。

長岡京市立長岡第四小学校の皆様、関係者の皆様、本当におめでとうございます。

低炭素杯2014の情報はこちら <http://www.zenkoku-net.org/teitansohai2014/>
発表の動画も掲載されており、長四小の発表も見ることができます。ぜひご覧ください。

取組み紹介

京都府長岡京市立長岡第四小学校 “目指せ1t”～地域を動かした子どもたちの合言葉～

昨年度、地産地消や地球温暖化対策について勉強した長四小6年生の子どもたち。「自分たちでもできる地球温暖化対策はないだろうか」とアイデアを出し合いました。ゴミの収集や焼却のためにも化石燃料が使われていることを知った子どもたちは、「生ごみの収集→堆肥化→学校菜園での野菜作りに活用→学校給食でその野菜を食べてフードマイレージを削減」という取組を行うことを決定。まずは自分たちから生ごみの収集を開始し、徐々に、低学年の児童や地域の人たちも巻き込みながら、毎週2回の回収を続けました。合言葉は「目指せ1t」。地域の人たちの熱心な協力もあり、1月には累積回収量が1tに達したそうです。

ゴミの持ち運びにビニール袋を使うとゴミが増えてしまうので、繰り返し使える専用のタッパーを使用。堆肥化には電気を使わない

コンポストを使用するなど、工夫を凝らしました。自分たちで作った堆肥を使っているので、菜園の雑草は、学校で飼っているヤギに安心して食べてもらえたとのこと。

低炭素杯の舞台で、子どもたちは、「協力してくださった地域の方々への感謝の気持ちを忘れず、この取り組みは5年生4年生に引き継いでいきたい!」と力強く語っていました。



←低炭素杯 授賞式の様子

(まとめ：木原浩貴)

report

1

2013年カエデの紅葉日調査報告

2 013年の紅葉日調査結果は、一番早い報告は南丹市美山町で11月7日、一番遅かったのは京都市内で12月8日。紅葉開始時期は約1ヶ月のズレがありました。観測者数は94人で、そのうち46人が園部高校生。観測地点は合計76地点でした。

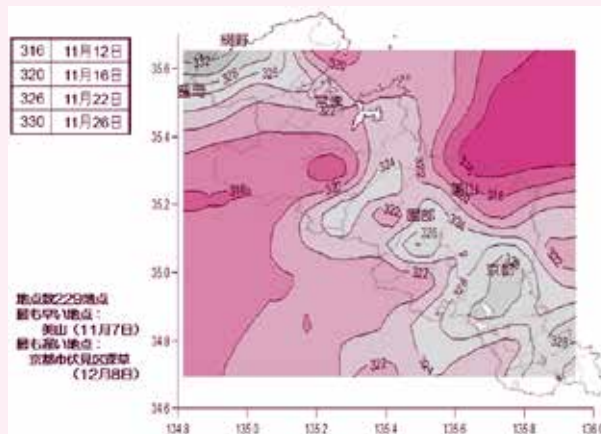
報告のあった地点は地域が偏在していたため、新聞等のマスコミ情報から紅葉日を推定したデータを追加し、229地点の分布図を作成しました（右図）。

この紅葉日分布を見ると、2012年の分布より全体として約2日早く紅葉しており、これは京都気象台観測の2013年の紅葉日が12月5日で2012年の12月7日より2日早くなっているのと同じでした。

ただし、京都気象台の平年値は12月3日となっており、2013年秋の紅葉日も平年より遅い年であったようです。年により前後する紅葉日は、長期間継続して調査をすることによって、傾向をつかむことができると改めてわかり、継続的な調査の必要性を感じました。（調査・分析協力：龍谷大学経済学部増田啓子先生）

2013年京都府域紅葉日の等期日線

市民参加にマスコミ情報を追加した結果（229地点）



report

2

2013年3月15,16日

第4回京都府地球温暖化防止活動推進員研修会を開催しました

3 月15日（土）に京都市内で、16日（日）に宮津市内で、今年度最終回となる推進員研修会を開催しました。

今回のテーマは、「自然エネルギーのある暮らしと地域」。前半は、個人宅での自然エネルギー利用に焦点を当て、冊子『実録 自然エネルギーのある暮らし』（※P.8参照）の内容を紹介するとともに、冊子作成に当たり取材を行った推進員、あるいは取材を受けた（＝自宅で自然エネルギー利用を行っている）推進員によるリレートークを行いました。

後半は、地域ぐるみの自然エネルギー利用を主

題とし、市民エネルギー・京都の田浦健朗氏より、太陽光発電システムによる市民協働発電所づくりの事例について、また、京都・薪ストーブ友の会の住吉豊氏より、薪ストーブユーザーが共同で行う森林整備・薪づくりについてお話しいただきました。



お知らせ Information

自然エネルギーを取り入れて暮らす人々取材し、事例をまとめた冊子ができました

title:

「実録 自然エネルギーのある暮らし」



薪ストーブ、ペレットストーブ、太陽熱温水器、太陽光発電の4種類の自然エネルギー機器について、京都府内で実際に使用している方に対して取材を行い、使用実態がよくわかる情報をまとめました。

ご関心のある方は事務局までお問い合わせください。また、当センターウェブサイトでもご覧いただけます！

事例の数は

薪ストーブ…7

ペレットストーブ…3

太陽熱温水器…3

太陽光発電…3

となっています！

冊子の中では、
このような形で事例を
紹介しています

自然エネルギー
機器や暮らしの様子を
写した写真



取材者の感想
「取材後記」

機器の種類や価格、
燃料消費量などの詳細情報

事例紹介の他にも、自然エネルギー利用機器の特徴や概要を説明したページもあります。

京都府地球温暖化防止活動推進センター通信「うぉーみんぐ」

(平成 26 年春号 平成 26 年 3 月発行 (年 4 回発行))

発行：京都府地球温暖化防止活動推進センター

(特定非営利活動法人 京都地球温暖化防止府民会議)

理事長：郡嶋 孝

〒604-8417 京都市中京区西ノ京内畑町 41 番 3

TEL：075-803-1128 FAX：075-803-1130

URL：http://www.kcfca.or.jp E-mail：center@kcfca.or.jp

編集：木原浩貴 川手光春 竹花由紀子 西澤浩美 洲上佑樹

法人の活動を支援くださる会員を募集しています！

年会費 正会員（個人）：2,000 円 正会員（団体）：3,000 円

準会員（個人）：2,000 円 準会員（団体）：3,000 円

賛助会員：10,000 円

詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。



この印刷物は、古紙配合率 100% の再生紙に、植物油インキで、風力発電による自然エネルギーを使って印刷しています。

